



### フランスの地方自治体訪問研修を実施しました

(一財)自治体国際化協会パリ事務所 所長補佐  
渡邊 寛 (福井県派遣)、笹川 真希 (奈良県派遣)、島内 智子 (佐賀県派遣)

クリアパリ事務所では、2年目の所長補佐がフランスの自治体を訪問し、研修を行っています。今回は、2023年10月23日から25日までの3日間、フランス北西部のブルターニュ州に位置するランデルノー・ダウラス都市圏共同体において、所長補佐3名が同研修を実施しました。

#### ランデルノー・ダウラス都市圏共同体

フランスの基礎自治体であるコミューン (commune、日本の市町村に相当) は約3万5,000存在しており、その9割以上が人口5,000人未満です。多くのコミューンの行財政基盤は脆弱であることから、複数のコミューンが事務を共同で処理する広域行政組織が発達しています。

ランデルノー・ダウラス都市圏共同体は、22のコミューンで構成される総人口が約5万人の広域行政組織です。同都市圏共同体の議長を務めるパトリック・ルクレール氏は、同都市圏共同体の中心であるランデルノー市の市長を兼ねています。滞在期間中は、ルクレール議長、サンドリーヌ・シモン事務総長および各部局を率いる幹部職員から、同都市圏共同体の観光政策やデジタル化に関する取り組み、そしてランデルノー市文化部長から市の文化政策などについてレクチャーを受けました。

#### ルクレール議長を訪問！

研修初日、ランデルノー市役所を訪問し、ルクレール議長に同都市圏共同体の状況およびランデルノー市の市政についてご説明をいただきました。

同都市圏共同体は、周辺地域と比較すると、高い人口増加率を誇ります。この理由として、ルクレール議長は、交通の便が良いこと、企業を誘致し雇用創出が図られていること、そして、良好な住環境が整備されている点を

指摘していました。



パトリック・ルクレール議長との記念撮影

#### 都市圏共同体の取り組みは？

同じく研修初日、同都市圏共同体の観光政策についてご説明いただきました。同都市圏共同体が運営する観光案内所は年中無休で、国内外から年間6,500件ほどの問い合わせに対応しています。また、一般向けの観光情報および観光商品の提供やパンフレットの作成などを行っています。ランデルノーは夏季の来訪客が最も多く、一方で冬の観光客が少ないため、冬の来訪を促すようなイベントに力を入れており、近隣のコミューンと協力して実施しています。

観光誘客を目指したマーケティングも重要な業務の1つです。ランデルノーが位置するブルターニュ地方は、海に面しているため水上スポーツを楽しむことができ、また、山側には自転車のトレイルコースを整備しています。このような豊かな自然環境を求めて、ドイツ、ベルギー、イギリスなどから多くの観光客が訪れています。幅広い年齢層に向けて観光プロモーションをしており、観光客の好みなどを分析して観光プロモーションや来訪時の対応に活かしているそうです。

一方で、新型コロナウイルス感染症の影響で観光客の来訪が激減したことにより、観光地として栄えることも大切ではあるが、他の産業と合わせて地域が豊かになることも重要であると気が付いたと仰っていました。

研修の2日目は、同都市圏共同体のデジタル化に向けたさまざまな取り組みをご説明いただきました。最も印象深い取り組みとしてデジタル金庫の整備と電子署名の導入が挙げられます。デジタル金庫とは、職員が行政文書をオンライン上で参照する仕組みであり、電子署名とは、契約書などにおける署名をデジタル化する取り組みです。職員が持つデジタル化に対する不安解消などの課題に向き合いつつ、同都市圏共同体に勤務する職員自身の経験を活かしながら、これらの取り組みを進めていました。



観光政策に関するヒアリングの様子

研修の最終日には、ランデルノー市の文化部も訪問しました。文化事業に関する権限は各コミューンにあり、さまざまな事業を実施しています。ランデルノー市文化部では、文化も経済の原動力と考え、住民サービスの充実および魅力向上のため、施設の維持管理とイベント実施を中心に、さまざまな業務を行っています。

現代アートに造詣が深いルクレール市長の就任以降、数万人が訪れる大規模イベントも開催しています。中でも、市長の意思で立ち上げた冬のアートイベント「Nuit d'hiver」は、現代アートを中心としたイベントで、市内の建物を活用してプロジェクションマッピングやライトアップを行っています。2022年には、約1万5,000人がランデルノーを訪れました。毎冬参加したいという文化団体も増えており、新たな冬季イベントとして認知されつつあります。

歴史的な建物の活用も重要な業務の1つです。既に稼働を終えたレンガ製造工場跡の壁や炉を修復して展示し

ているほか、アートイベント会場としても使用されており、文化財を大事にする姿勢を改めて感じました。

## 同年代の自治体職員と意見交換

研修プログラムの一環として、私たちと同年代である同都市圏共同体の職員と交流する機会も設けていただきました。フランスの自治体職員は、複数の自治体に勤務することがあるほか、同じ分野の業務に長年従事することがあるなど、日本の自治体職員とはキャリア形成が異なります。地方公務員としてのキャリアおよび自治体における働き方の違い、また、プライベートな内容も含めて、国を異にする自治体職員同士が自身の経験などを意見交換する貴重な機会となりました。

## 庁舎内の様子は！？

研修プログラム中、約110名の職員を有する同都市圏共同体の庁舎および執務室をご案内いただきました。印象的なことの1つとして、職員1人に割り当てられているスペース（デスク）の広さが挙げられます。1部屋に数人の職員が配置され、それぞれが快適にデスクワークなどに従事する様子をうかがうことができました。また、フランスの自治体においても、行政文書などを保存するための多数のファイルが並べられているなど、日本の自治体との類似点もありました。そのほか、職員がバカンスを取得しており、空席となっているデスクが散見された点に、「フランスらしさ」の一端を垣間見ることができました。

## 研修を終えて

ランデルノー・ダウラス都市圏共同体の政策は、どの分野においても、何よりもまず、そこに住む人々の生活の質を向上させることを目指しており、住民を大事にしていることを強く感じました。公務員としての本質的な心構えを再認識するとともに、それらが日本およびフランスで共通するものであることに気付く機会となりました。

この研修は、私たちを快く受け入れてくださったシモン事務総長をはじめとする、ランデルノー・ダウラス都市圏共同体およびランデルノー市の皆様のご多大なご協力のもと実現することができました。この場をお借りして、厚くお礼申し上げます。